

(様式2)

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590400071		
法人名	社会福祉法人つばめ福祉会		
事業所名	グループホーム保内の杜 ユニット1階		
所在地	新潟県三条市上保内乙533番地7		
自己評価作成日	令和2年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公社)新潟県社会福祉士会 あいエイド新潟		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム保内の杜は、平成22年4月開所以来、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と共に、地域に貢献できる事業所を目指し、取り組んできました。平成29年4月から小規模多機能型居宅介護事業所を廃止し、平成31年6月から共用型認知症対応型通所介護の事業を休止し、グループホーム2ユニットの事業を行っています。

当事業所は保内地域の中心部に位置し、近くに小学校や保育所、公園や植物園、公民館、JR駅などの公共機関があり、緑豊かな自然に囲まれた地域にあります。また、年2回の避難訓練の実施、小学校との交流などを通じて、ご利用者の生活の質の向上に向けて取り組んでいます。運営推進会議でのご意見を参考にし、地域での関わりを大切に事業運営を行っています。

サービス面では、職員がユニット毎に勤務し、9名のご利用者をユニット職員でサービス提供できる勤務体制を整え、ご利用者と職員が馴染みの関係の中で、より柔軟で多彩な支援が提供できるように取り組んでいます。

感染症対策を行いながら、季節に応じた行事を計画し、笑顔があふれ、居心地の良い、ゆったりと落ち着ける雰囲気づくりに心がけています。また、事業所の理念であり、ご利用者本位の生活を表した、「気持ちのいい杜」の実現を目指し事業を推進しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山沿いの集落が立ち並ぶ一角に所在しており、2階建ての建物は周囲に違和感なく溶け込んでいる。開設時は1階部分で小規模多機能型居宅介護事業を行っており、2階部分のみ1ユニットのグループホームを運営していた。平成30年に小規模多機能型居宅介護事業を休止したことに伴い、1階部分もグループホームに転用し、現在の2ユニットの形で運営されている。

自然豊かな場所であり、事業所からは四季折々の風景を望むことができ、利用者の穏やかな生活に豊かさを添えている。近隣の住民は事業所に対し非常に好意的であり、米や野菜など農作物の差し入れが頻繁にあったり、除雪などはお願いしなくても手伝ってくださることが日常である。近くの小学校とも懇意な関係が築かれており、事業所から認知症サポーター養成講座を小学生向けに行なったり、生徒と合同で「よさこい」を練習し披露したりするような交流が行われている。今後は地域の児童との交流を目的とした「子ども食堂」を定期的に開催する計画も練られているところである。

事業所は地域と一体となって、理念である「気持ちのいい杜」を目指し日々努力を重ねている。事業所の運営については、現在の管理者により改革が進められているところであり、常に問題意識を持ちつつ職員皆で考えながら取り組んでいる。職員一人ひとりが問題意識をもっており、日々のケアで行き詰ったことや疑問があれば、その時点でミニカンファレンスを行い、チームでのケアが円滑に行われるよう職員同士何でも言い合える関係作りがなされている。また、職員の休憩スペースを広げるなど働きやすい環境整備にも力を入れている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づいた職員行動指針や事業所の活動方針を掲示し、ご利用者、ご家族からも確認していただき、事業所会議にて職員間で共有を図っている。また、目的や役割分担を理解し、「その人を知る」「気持ちのいい杜」を目標に上げて取り組んでいる。	開設時に職員全員で考えた「その人を知る」「気持ちのいい杜」の2つを事業所理念として常に意識し業務に取り組んでいる。事業所の全体会議や学習会では理念に紐づけてケアの振り返りを行なうと共に、周知・共有を図っている。毎日の始業前には、行動指針および事業所理念を確認してから業務に入るよう職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を行いながら地域のクリーンデーや廃品回収などに参加し交流を行った。	自治会に加入し回覧板のやりとりから、清掃作業、廃品回収など地域の行事に利用者とともに積極的に参加している。事業所運営に協力的な地域であり、畑づくりの手伝い、農作物の差し入れ、冬場の雪掻きなど地域の方が主体的に協力してくれている。近くにある小学校の校長とのつながりで、小学生との踊りの交流や認知症サポーター養成講座の開講も行なっていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症対策を行いながら、地域の方の協力をえて、事業所の畑でサツマイモを育てたり、小中学校の挨拶運動期間には事業所前通りにご利用者と職員が立って挨拶を実践した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を書面での開催とし、事業所の活動状況の報告、運営推進委員からの意見や提案をいただき、職員と情報共有し、サービスの向上に努めている。	事業所の各ユニットから利用者代表、家族の代表が参加し、近隣の3地区からは自治会長が参加しているほか、小学校の校長、民生委員、市の福祉課担当者など、多彩なメンバーにより活発に意見交換が行われている。現在はコロナ禍により書面会議で行なっているが、会議案内を手配りで届けることにより顔の見える関係を継続している。コロナ禍以前は、会議日に合わせ会食や防災訓練を実施し、意見をいただいていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に、メールや電話で質問や相談を行っている。必要時は市へ出向いて報告し、助言をもらっている。	市の担当者が運営推進会議に参加しており、日常的にもメールや電話でのやりとりのほか、所用で訪庁することも多い。市の連絡協議会主催の研修会への参加、最近ではコロナ禍での他事業所との協力体制についての話し合いなどもあり、密接な関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回の委員会を開催し、その結果をもとに運営推進会議で共有を図っている。また、定期的に身体的拘束防止のための学習会を開催している。ご利用者の気持ちを確認し、1人1人の支援方法を会議等で検討し、取り組んでいる。	「身体的拘束適正化検討委員会」を中心とした定期的な研修の実施により学びを深め、身体拘束の防止に努めている。人感センサー等の使用に際しては常に利用者の状態を確認し、必要無いと判断した時にはすぐに外している。利用者がなぜそのような行動をするのかを職員が考えられるようになってきており、身体拘束をしないケアが実践されている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で虐待防止についての学習会を実施し、職員が虐待防止に向けて考える機会を設けている。皮膚等身体に異常がないか観察を行い、ご利用者のケアにおいて苦慮している点や職員の負担はないかなど、職場内で話し合いを行っている。	事業所マニュアルを定期的に読み合わせすることで虐待防止について確認している。職員のストレスへの配慮については、事業所内での円滑なコミュニケーションが大切であることから、短時間、少人数でのミニカンファレンスをその都度行ない、一人で抱え込まないように意見の吸い上げを行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時、情報提供できるように、研修に参加し知識を深めている。また、地域包括支援センターの職員や後見人との関わりを通して、情報交換している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項の内容や利用料金について、パンフレットなどを活用して分かりやすい説明に心がけている。介護度の変更に伴う料金についても、その都度、説明し了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議でご利用者やご家族の意見を伺って、プランに反映している。	法人で実施している満足度調査で家族から頂いた意見については運営に反映させている。家族が来訪する機会が多いため、できるだけ顔を合わせて意見や要望を聴くようにしている。利用者からは随時、食べたい物、やりたい事などの聴き取りを行っており、3つの活動班が計画し実現に向けて取り組んでいる。	家族交流意見交換会や事業所としてのサービス満足度調査などのさらなる工夫により、これまで以上に利用者、家族の意見や要望が反映された事業所運営が行われることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	実施している行事や学習会は職員が担当し、議題を協議しながら行っている。また、職員会議や人事考課の面談時には、職員から意見や提案を聞き取り、事業を行っている。	人事考課制度により年に2回は上長と面談する機会があり、職員が意見や要望を伝えることができている。短時間、少人数でのミニカンファレンスは適時行われ、職員間のコミュニケーションが密に取られており、利用者の利益になるよう意見を出し合い、運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が毎日の労働時間を労働管理表に記載し、役付職員は超過業務の内容や状況確認を行っている。そのうえで就業環境の整備や見直しを協議し、勤務表作成時や運用時に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度で職員個々の目標に沿って、資格取得や外部研修に臨めるように情報提供している。また法人内の教育研修室のバックアップにより、各種学習会の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症対策にて、外部交流の機会を作ることができなかったが、介護福祉士養成校や実習生受入れを行い、日々のケアに対しての振り返りや気づきを得る良い機会となった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	感染症対策にて、見学等が実施できなかったが、申し込みや契約の際に現在の状況について話を聞き、ご利用者の言葉や気持ちを汲み取り、安心したサービスが利用できるよう努めた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の迷いや思い、また苦労話など聞いている。不明な点や困っている点など、ゆっくりと話を聞く姿勢を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の機能や特徴を説明し、ご本人やご家族の要望やニーズに沿ったサービス内容を一緒に確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができる能力を活かす活動を探し、行事や外出、買い物など参加可能な活動を勧めている。ご利用者によって、食事準備や清掃等の役割があり協力しながら共同生活を行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、定期受診の付き添いや必要物品の持参を随時依頼している。また、日々の様子や変化について、ご家族に連絡し相談しながら対応している。また、近況報告として手紙や写真、広報誌を作成し様子を報告している。	空き家になっている自宅に定期的に帰りたいという利用者のために、県外に住む家族が隣近所の方へ挨拶の連絡を取ってくれている事例がある。家族に見てもらうために作成した塗り絵を通して、交流が続いている利用者もおり、今年度から本人の写真や様子を広報誌と合わせて家族に発送している。事業所は家族の負担にならない程度に役割を願ひし、共に支え合う関係継続に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を行いながら、玄関での面会を実施している。	馴染みのパン屋さんや理美容室へ家族の協力のもとで出掛けている。馴染みの地域が遠方にある方には、近くまでドライブで出掛け喜んでもらったこともあった。事業所としても、利用者が親しんできた山や田畑などの風景に接してもらえるよう外出や行事を計画し、懐かしんでもらえるよう検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者が共に助けあって暮らしていく大切さを理解し、孤立やトラブルにならないように、役割や食事の席、居場所を変更し、媒介に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は面会や電話連絡による情報交換を行い、ご家族の不安解消に努めている。また、住み替えについては環境変化によるリスクを最小限にできるよう情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を日常の会話や暮らし方から汲み取り、個別介護留意事項(アセスメントシート)に記入し、職員間の共有とプランへの移行に活用している。また、必要に応じて、ご家族の意向やこれまでの暮らし方を情報シートに記入してもらい活用している。	独自の「個別介護留意事項」の書式を使用してアセスメントを実施している。インテークの際に家族から直接書式に記入してもらうことで、より多くの情報の収集を図っている。入居後の生活の中で聴き取った思いや意向は随時追記しながら、定期的な更新を行ない介護計画に反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者個々の生活様式や全体像を個別介護留意事項に記録し、職員間の共有に努めている。新たな発見や情報は、その都度、追記し更新している。	入居前には可能な限り利用者の自宅を訪問し、馴れ親しんできた生活環境の確認を行なっている。また、「暮らしの情報シート」に直接家族から情報を記入してもらい、これまでの暮らしの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの状態に合わせたサービス提供を行っている。一人ひとりのできる力に目を向けて、その人へ適切な支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で上がったご本人の意向やご家族の意見を尊重し、担当職員の意見も含めて介護計画を作成している。その後は毎月のモニタリングと随時のカンファレンスで確認し、状態に応じた援助内容になるよう職員間で情報共有し見直しをしている。	サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、本人も交えて介護計画の確認を行なっている。その際に、家族の役割についても相談している。担当職員が毎月モニタリングを実施するほか、介護計画の援助内容については毎日、達成状況を確認している。また、利用者に応じて機能訓練指導員の指示に基づいた援助内容が位置付けられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の記録と細かな変化や気づきを記録し、職員間の共有や個別ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居後についても、ご利用者やご家族の状況に応じて、法人内外のサービス事業への移行も視野に入れて支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や理容室、ボランティアや民生委員、他にも多くの力を借りて、共に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ医との関係性を継続できるように支援している。また状況に応じ専門医の受診を必要とする時や状態に不安のある時は、職員同行や情報提供書の作成を行っている。	それぞれのかかりつけ医に家族が受診対応している。通常時は「利用者情報提供書」を使用して医療機関との情報のやり取りを行っており、直接確認したいことがある場合は職員も同行するようにしている。歯科については、希望があれば訪問診療を受けることができるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に医療的ケアの方向性や受診の必要性など、情報交換を行い、介護職と看護師の連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の相談員や地域連携室の看護師、またご家族との情報交換を行い、退院時にスムーズに受け入れができるように調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及びサービス担当者会議で、ご利用者の終末期の対応について、ご家族の意向を確認している。そこで事業所のできることで、できないことをお伝えし、共通の認識のもとで支援している。	現状では看取りは行わない方針で、入居時および状態変化の際に書面を用いて説明し、同意を得ている。事業所のガイドラインに沿って住み替えが必要な場合には、施設の紹介や手続きの支援も行ないながら、元気なうちにスムーズに移行できるよう進めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で看護師の指導を受け、容態急変訓練を実施し、急変時の対応について学習している。	状態不良の方については、夜間に急変が起きないように日中のうちに対処出来るよう調整している。緊急時の連絡体制も整備され、訪問看護師とはオンコールでつながっている。心肺蘇生法や感染症対応の訓練のほか、事象別に勉強会も行なっており、先回は誤嚥時の対応についてシミュレーションを交えて実施した。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練は消防署の立ち会いで、ご利用者も参加し、日中や夜間の火災を想定した避難訓練を実施した。	火災や地震想定訓練を、消防署による検証も受けながら実施している。運営推進会議の委員にも参加してもらい意見をもらったこともあった。土砂災害の危険地域であるため、マニュアルの整備のほか、建物2階で備蓄品を管理するなど、有事の対応について申し合わせをしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に基づき、その人らしさを尊重した言葉かけや対応に注意している。随時、接遇面やプライバシーの確保について、申し送りや気づきを報告しあい、振り返る機会としている。	職員の入職時にプライバシーや個人情報保護、接遇などについて研修している。日常の中でプライバシーへの配慮の無い対応が見られた場合は、その都度勉強会を開き、その対応がどうしてプライバシーへの配慮に欠けているのかを確認している。言葉掛け1つにしても、かしまった言葉だけでは伝わらないため、親しみを持った丁寧な言葉遣いで接するよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉では十分に意思表示できない場合も、表情や動きから、ご本人の思いや希望を汲み取れるように努めている。また、行事や外出の参加、各種の活動においても選択できる場面をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望とニーズをプランに組み込み、ご本人のペースを優先している。職員はその状態や動きに合わせて柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から、身だしなみに心がけ、外出時にはご本人と一緒に衣類を選んで、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から、ご利用者のできる力を活かして、準備や後片付けを一緒に行っている。また誕生日や行事などに手作りおやつを職員と一緒に楽しみながら作っている。	朝夕の食事は管理栄養士が立てたメニューに沿って職員が作っているが、平日の昼食は法人内の障害者施設の配食が届けられている。メニュー通りばかりではなく、職員がアレンジしながら利用者の希望に沿った食事作りが行なわれている。料理の達者な利用者を中心に、味付けや炒め物、洗い物など食事の全般に利用者が関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事量や水分量、好みを知り、栄養スクリーニング表を使用し、栄養面での確認を行い、必要に応じて管理栄養士に助言をもらい支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後の口腔ケアは定着している。そこで異常の早期発見に努め、受診や訪問歯科診療につないでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレやポータブル誘導を行い、排泄失敗の減少に努めている。	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行なっている。半分近くの利用者はほぼ自立している。適切な対応により紙パンツから布パンツに改善した方もおり、利用者の気持ちを尊重しながら自立支援を進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向のご利用者には、食事や飲み物で調整したり、体操を行ったり、定時のトイレ誘導など、時間や方法にも工夫をしている。必要時には、主治医に相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望やタイミングを確認し、柔軟に支援している。	少なくとも週2回は入浴出来るように支援しているが、希望があればほぼ毎日でも入浴は可能である。元々は入浴拒否のあった利用者の対応として、毎日声を掛けることで入浴が定着し、今では週5日入浴されている人もいる。朝風呂や変わり湯、音楽を流す、楽しく会話するなどいろいろな取り組みにより楽しい入浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの年齢や体調、生活リズムを考慮しながら、活動時間と休息時間の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報一覧表を用いて、内容や副作用を確認している。薬の変更時は経過観察を記録し、次回受診時の情報提供に役立てている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は季節に合わせた行事や活動内容を提案し、実施している。また、ご利用者の生活歴やできる力を生かせるよう希望を確認し、実施できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策を行いながら、テラスで日光浴、昼食会を行い気分転換を図っている。また、買い物やドライブについては、天候の良い日に希望を伺って、一緒に出かけている。	コロナ禍以前は、季節ごとの花見やドライブなど家族の協力も得ながら頻繁に出掛けていた。現在は、食材の買い物や近場へのドライブ、散歩、近くの小学生との挨拶など、可能な限り屋外に出られるよう支援している。事業所のテラスでは日光浴や食事会を行ない、開放的な雰囲気の中気分転換ができるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な金銭管理は行っていないが、ご自分で管理されている方については、一緒に買い物に行き、支払いをしている。所持金がない方については、買い物に行った際に立て替えし、ご自分で購入していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望されたときには、電話連絡できるように支援している。また、お孫様と手紙のやり取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて炬燵やテーブルを配置し、ご利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごしていただける空間作りに努めている。	1階、2階ともリビングはとて広く、随所にソファや椅子が設置されており、利用者は思いおみの場所で心地良く過ごしている。季節ごとに家具や装飾も変更し、室内にいながらも四季を感じることができる。テラスには陽射しが十分に入り、日光浴するのに最適なスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でもご利用者同士の会話が楽しめるように居場所作りに配慮し、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族と相談し、居室の環境設定を行っている。ご利用者によっては、家族の写真を飾って安心できる環境に工夫している。	本人、家族の希望を聴きながら担当職員が中心となって居室づくりが行われている。クローゼット内の衣替えは家族の役割としてお願いしている。利用者が趣味で作った押し花や竹細工など馴染みの物を飾りながら、居心地の良い空間づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員も環境の一部と考え、環境の変化を最小限に抑えて、自ら行えることを支援して、自立した生活が送れるように見守りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				